春色辰巳園

月

へ13
2907
4

門へ13
號2907
巻4

昭和九年七月六日
購求

序

梅園義堂辰巳園合戦
通詳八編もてれ八陣佐竹等
色彩諸分のゝ踏之略一編毎に意味
深長魚鱗に備て當る者翼
一の海人てもてみ九月備

横行する厳乃あるべバ。せんかを要る
蛇乃備放矢虎踏のこの陣へ打ろう破軍
敵先ゑ稽ぐ。あるべるあれバ信要ル。
極意試あるべ情もあり。もの人の色の
道ハ彼孫の八陣ハ取用れ。りの小同ぐ。
ヲ小ルのれ義理と意ゑ地乗事成ルるべ

いつまでも出られぬ出門請出ぐれ。身を
保ぬ生南門彰間ゑ金乃掛ヲ
あれぬ。夜討朝掛ル蝿ひ形ぐ。ゑ
を伺ふ悪び乃御客ゑ打ぐ八日ゑの
迎ひ。船宿の出丸。閨房ル籠城後ゑ
付ぬ吾二社同ル備。あるを知れも。ゆん

手を尽して公卿と雲上場数の功名恩賞紙に
出給ふ赤心の矢石を冒して油断なく
なき人情反覆孫氏の兵法を為
ばかりなれば軍威を以て敵を挫
ば恩賞を利せざる者なし烈士
なり。嗚呼古今戦場と僧上将者

時を卒怠る容嘗国を身傾むく慎く
を計る者ハ人の軍師の策配に依是非
を大将の器質にあり可否通と
不通乃理論を待たく。

未乃陽春　金龍山人　為永春水誌

松竹梅の操ふ
三美人
いづれと是と定うん
仇吉
ようろ〜看官の
高評ふ俗のせそ
ちの身を
領ふうん
蝶
たゞし
お蝶ゲ
ろうも
あどうん
姿八児女
童幼
ちゃく
ちゃく
ちゃく
西王の
巻末の
朱八

放蝶が
小児
再出
仇吉
仇吉の
叔父

妙法の
功力
血筋を
法ぎ
方便の
木文寺
災厄
生福
生可義の
霊場
乳母
素八
再出

金龍山下に偶居して今年花山人と号し草庵を結びて風雅あるを
慕ふ人もなし九尺二間の住所を借宅して狂訓亭と自
称せるは拙作の主意を勧善懲悪の教訓に取り異なる趣向文章拙き
筆を粧ひの意なれば教訓ふかくして狂言を交ぜんとするも
杯のしたなめとなる亭考なり一寸菊水春くみとる澤に満る清山の
色を頼みて暫く楽みの戯作の魯智は壁満人に聞えて門
人等をとりて自作の草紙まれに有るを板ずるより是は八賓の手ずから
改作と共に四方はほ弘法は方々告げ知らせ願ふ所也
東都戯作者　金龍山人狂訓亭為永春水

梅暦　春色辰巳園巻の拾
餘話

江戸　狂訓亭主人著

此書籍ヲ賣却又ハ貸人セントスル者アル時ハ直チニ御報知ヲモフ
津田安磨

第七條

慾深き人の心と泽雪人法もりく〜く道を上ぶ〜と
歌のそもそもの初まりは端迷の義理の立礼義恩の
辻の橋示のちぎりを結ぶく繻子にうみめ八島の山路の
門ありさまぶ〜ぶひとを張合ふく初の孝性の仇夢今を遠
ものぶとを結ぶいと法やう人目もいとを心とり

いぢづくるまぶ丹次郎ものとおもへども俗ようう
ぬう男のかうぶりの人なく中ちやうくちつけくつきものりしぶ
いろ
えのいきぢちと仇ちやう目尻とあげ仇へヲや丹さんあまくぢうー
ーうんぢく仇のもちんりよ孫兵衛ちうつくもいくぢやア白いろ仇も
ちやうと
第八さんがあーーくうまるくぢくもくさそうあのんぢといのと
ぢーあるのちうまるこでもいかく高まのーーそ七又ぢくちうつと
のーどやうちうのうぢーるちもーーちうあるんぢアこいうる孤く物の
いひやうとあるちるのんぢうーちうくたちうるちぢでも

うんでもあいーどやアちうのくちのあと成ちん身よ孤ぢちうく
きざ
ちうぢ藤ぢうくもようちうと等門くも切まやうとおうつちも私知ア
まうちきぢふ紀ぶまてぶ行のちあくまぢくも付まうちうくやるうう
そう思つくおのぢよ要女の源情とやでちんる孤今源のお思
のやうあのあのよりまてくまちぶあまくの尿調法ちのふりんぢアこ
トこぢちぢてうちうちいと冊うそちまぢやアうんぢの今いの
ちう
遍うあちぢ紀ぶよちーくちんみうぢーく更酒屋幸ちうちあ
いひぢちをうつく近所の孤ちりちやうと思門くのちう

そんなるマアなにまあ何ぞよこまうト云る間へ煙管を入き
まごこと人と一図に指く立仇吉ハあて丹次郎が気物の紙
ゆ仕うまくあぐる仇「アモシそんざま丹さんそんなまごこく仇久
ぶとも後の立て成男の作よふ云く竹くお詠りお丹
よ〜強くおなりくも数おアア何よも後成立ちア事の久
ウ廿ちく云事ゆくト男であり〜らつくつまくてあ
据後掛ふ仇吉ハもちさびまつく注くみる丹次郎
つまくらも出ぐる気もぐまつく云もある仇「丹さんアア生て

おくまとどうでもいかう一度んとろうとあくいかうとよ仇
さん後生ぐまつト男あぐる仇「丹次郎ア新後又注あ
うる心服元ハ丹次郎が実ハ家後をくちしとろえびつとう
せ〜男ハ上まつく男くと那も客ものくこ気ぐり
に云るとろと男ハ絵もとうさくるおりひよ後ハ入して注ま
ら〜ふる服のとあもどこやらあぐる家仇吉が新まぐ日を成
ちくとあと男ハひとくれ不後まつり云注注新も竹仇不
の完う新〜ものども杵や仇条が名れの姫言後の吉

喝采紅葉將

三下り

チヽチンチン

すぐりこぶ　チヽチンチンさまでが　岩木ぶのこぶ

ちろちろくもらいとあらまして　下畧

さあ〜　そまでがくもくもくと　花やうし　極ト

ひぐらしものまくちろる　サアちんぐ　一エ、ちん

ぐちのようちろ　ちろちろすちろちのようろ　極

ぜーちろちろ　赤の丸まてびんの如　ひ

赤うと　仇赤ぐ　丹は事ぐ　極く　対て注

丹は事　仇赤ぐ　ちろ

ひぐちのようちろ　注くあるも事丹は事も又ちんちもも、

ぜ　ちろ　牛くびんのちろ　長上ちできくある　仇

赤ぐ　赤を　仇　丹さん　丹ちんぐトやきーくちろ　仇

ちん　ちん　ちん　ちん　ちん　ちん　ちん　ちん

ト仰せかる　丹　ヘ　ものもとこそヨトヨ　仇　ヘ　きりんとゞヨ　丹　ヘ
　　　

恋風や
柳の眉と
佐の間ぶそく
半八
佐吉

○ 和ってい物の手紙とることかくのごとくそんせうをぶりつぶりとろこびあるふうん
嗚呼いろをとることどりつくいるきものふうーかこうりよつきびともあごぐ
縄をあるざる雲くよ 冊 ようーかうよナニそんるよ 絵巻手の
出男公ーー

そくそんるふものーグ復をとろのが幸にるる 仇 アー 冊 ん
とうク 仇 アー 冊 ソレ 髪髪ざーグ落ーグ屋ーグう とーーつき
よもくく 仇 泣却ーあ 仇 そまでろくも秘ものうーー今日の会
びつくりーーとろ絵のの紙 冊 ナゼそんるふびつくりーー通へ
ぐもいことよ却の毒ぐ 仇 傘免ぐもこの逢とたぐノ
そうもるのよ 冊 まくよ和府の角も生活男ぐアナア 仇 吉

仇 うまーーの絵ト まぐくく仇く
かくりーーの家米八グ溜ぐくぐく 冊 ぐる表向
ぐ仇吉とまくまくとのを人用のくくくくまくく出入合
も今まぐく逢ーーその宅へ幸福ーくくる武士地と
くまくまくく霊ひもうーーとと我見ける新きく
うくくりくく仇吉ふのくまくこの場のあきとあり
よで米八と空吸ーくく今仇吉ふ重でくぐるうー
まぐ伺まくも多遠ひとくりくるくり仇見ぐくくぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家のうちのあるじ

義理ある人ぞ

仇名

来八より

仇名

やう様世の人の仇名よりまりくしが
仇名ぶ前なる名近所へ出るく今まで返事なのようくこり
来八が使ひぶ毎ごとに名仇名八来八が使ひ名仇
いくまりくことをうんみ使へ八りくト言ふ仇すいく
こと云ひりくけてうんみそのどうもこうかなまたくぶ
、どこか用まかのくこうくしくこまの仇名ぶりとそうやくく
おくまこト来八ぶ義仇名やの使ひまこまこ仇へちのくぶうぶう
ヒアト福云使八ぶぎる思ぐぶもみ我ぶぎこ使りり仇名ぶを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元まつりの稚子まく[illegible]唱歌[illegible]若者[illegible]

[illegible]樂三者ごとり持[illegible]

[illegible]一同[illegible]桜川新者

一　山王祭汗の一曲　[illegible]

一　関寺[illegible]　[illegible]振

一　関[illegible]数[illegible]風情

一　梅我が[illegible]

一　[illegible]森千人長[illegible]

此[illegible]

さ[illegible]

[illegible]

[illegible]

けまでちくりとさきのこまるの場合果八さんとのいきちりぜくぐ
浪者も義理もうまうまどま今日八見非とも恩知張ってけく
ぐさまう張さでこまると光輝の場合の出合うの八亡の亀本と
ちまと流のたまり張さのくちくちくまこぶマア知更や米さんの後
浪者も仲あちくち殺す今貝章さんの約果ぐあるちゃちゃ
米八ぶんも義理さんぐ仲のう義ぐるけがあちく今ばまこ
義理をるとのことまぐ章さんぐ裏ぎちくざア私と一緒ちちち
とお出合流ぐちくちくひ初きも自ばちるる〜落ちも

あるちくちくマアお出トひちまくさ仇者ちも初のまちちくちくち
ちく活業とひひちち森世ぐ伝切名ちく仇名の姫今ちひ引ち
らまちく仲ちちち待ちるおちの果八ぐ初ちちかまぐ絵方ちく
うち連さんとまちちちく接川義章「お森さんちちと
森「ヲヤ義章さん何ぐち「吾ちちあ更をち迎者ちする方客
ぐちく「ヲヤちちちく仇さんちちと結ちく吾今来ちちちヲヤ
仇さんちお実ちくちちアお出ち仇「なりがちち今少ち来ちち用ぐ
トひひさちく初のちちの落ちちぐいちちちく初ち

善兵衛を転せと仰せ蒲しきに成ゆく時分のるこう米八が仇さん
ちろと仇へヲヤ米八ざんか私やア犬と名を付けまてこうもう仇
書をいろまのよ〳〵私やア犬と名を付けまてこうもう仇
仇へ犬でも猫でもこうまこう強くどうせ主人のいとりり書生ぶる
人ろのいろこうこう強くこう私の名ふとりこうするこうこう
つくまてこと丹さんと五日中抱つく森やうど吟合ぶる
らばこうまつくおこうまてくらいよりぶるお世話の猫まてど一ナニ
猫でこさこうでも私やア強人八〜強ョもあのやうよ他の事

温泉大繁〳〵強くよこんこうこんでも旦那様
まこをさんと此紙屋様きこうこう屋様まのく猫の下でも
逃こうぶこアあるめくトいろこうこく仇吉が米八めうけく
むしり法く此方も名やしきく法酒様呑ぐく来りしその
数人こうぶ私もいろこうこうこそ吟行仇吉ひつく米八実ょ元
悩の太と猫の弱下結猫剣よあるの様こうく仇吉ぶ三様
米八こうすこんとかひぶをつのく仇吉ぶ擬宅法ぶんぐ引く
せぶ引こうこうよ米八の貴様こうこうと弱下強ぐく様ぐこうこう

ごろうさま
五郎様の御おく花ちるうんざーしょうろ仇吉が多の釣下駄を
ようそのうえ米吉門うとおく米こうやア仇さん釣下駄ぐ〳〵アイ
ぐうこのごうるるく〳〵おとめうまてさ意趣返ーー又新ーてトあり
あり て ちゃ つきふ
ようちゃるくるおくく実例ーしょう業ーろ米八がさのうひ庶の
ろうちゃり て ちゃ ひき
拍子生うこまるまるくうこぜぐふざうぐう仇吉が新ろう海へ
ようちゃ ふぐ
ようくーー米八ろ花のきく〳〵おぐうもく人のろうおぐくうこちゃア
こども きんどよ
子供ろ近所のものが用ろ捕の水ぐーるハあびろきるるもある
ものこト 今ハーぐうひょ食事もうく新ょ紅葉のちるのころ

ざ
ぜーぜをけちうーー仇吉がきうこ釣下駄ふりあげる打ろう後の
うううう あり ぜんうーしんうう
障紙をぬくうけのうこ吉孝新巻左右ロろうきうく米八と仇吉を
ろう
押しけ新〳〵モンマアぐうーーこうちうびぐく前時日のおのお二人が
だーよ ちく えんりょ
場所も客も客ろく仇そうどう組組こうくく海へ
ぐうう ろう ろう
猫ろ方方にあるにもーろうる流ろ二人の吉ょ病が治のうう
おう ちぐ
お客の病ものうこの完ぐうもすうるるくしけマアぐのうーるも
ぐう ぐび
ーーうよ一完ぐハるもあるこ発ーぜをかくく新巻を寄ハ
ぐう しんう
米さんそうるるく一太三そうぐ新マアぐ米さんぐうこ女寄の新の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

「そりゃアどうで自分のあることなすのあとそれ」
どうゝゝあるあるきがあるのごアチット雑をくるしゐく「ちょいと」
旦那よりく動めろそう千りゃアくあ年まあるものゝゝふるるしゝ大きゃ
十日引越ぐくもとまるあうあてるものくてろうるる春ゝ
しゝうあく紙ぐゝで藤でもせんきでもとびのくハ祝の間口ゝ
手アがるてもあゝトいうまくく仇吉ゝるゝさも振ゝうまるあ
早き紀ありくるあのうく「毎出ゝりゃアあんまりごアれ
ちんあるとどゝゝくゝあるものあるあるある

絶母の欲情
佐吉をおや
まる

佐吉

高まきまきあつく〻〻八甘いものをうり金さごつく誠法堂年
もいつ〻ゑ〻まきとあつかあまぎいろく故人〻〻おもぎてそ
ゆ〻〻〻おまきあ八笠〻〻さゑぎうー〻く〻〻そうとおもふのぎ
ぎうもそまぎとうつく〻ぎねくやうかそのうちもう死ね
ぎうく〻あんまりいぢわるくんの十二そやく死よてとと
釈不異あ〻コレその死てとうふ何ぎ業さ〻〻お此ち地よ
おく男をぎあ〻〻くうねが身のあんまくぶもするぎわんとうぎ
のよ二人も二人も女の陰付く〻あるぎ奴よあつく〻〻あげ〻〻の
紙うあう掃先よ法くうけくまつく陰わ沖の方へとあ〻知さ
きくまちぎ三ぎ付びようう〻〻とおりつく右も左りも丈夫
あつくあさり知ぎ絶へとつく親よ家南りやうがることも絶へ
ふんでまきふい三ぎつあくコレあめ紙景紙ねくそぎそとのふ
お老舗く鳥海の一番ぎあも呑〻〻くあふと鳥ふうう丹城
〻く人ふも用よ法くあうよこぎろぎりとあて死もこみそおりさ
のぎアうねぎまきさきんやそぎ人よ蒙ら立るやうよあつこと
ふさぎ〻〻の紙ぎ八日と金のさうひよありやうノ和年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

種を食るゐい〜何の面白くも種〜何ぞとつゝと釈ゞ食と食種〜
さろひぐの何のとおい〜ア極初年中ハあゝの世話ゆも多つころう
かまんざ〜親の厄介よさろり多りハ〜種〜何のおいう一人が嗜よ
こうう幾年宅〜徒弟つけこうもあるまゝ種〜そんなよ悪よかけ
らまるこも彩〜母〜悪ぐくれ〜と山書生あゞモウ〜堪忍お
らひ〜どうぐくふて藤の持病ハ茶だりで治そうこ今まで
山分のる藤津美ゞア彩〜〜〜〜〜病労まてる
仇者の狩豊徒ゝぐ帝の〜紙種着老女の食こう病骨
骨のきゝひあくどり〜〜とつけ折多づうくあまで知の
中茶一高九ゞ紙多〜ハあゞう出食の法ると九紙再ひ〜折
擲もうこる多こひとこる〜〜まこ悔〜さよ滅寿仇〜〜〜と
ぶちふく〜親もすきゆ〜ゆもア鬼ゞア めゝのあゞゞ母出〜
と他人ゆ〜まるの紙ゞこうと思〜ゆ〜ゞ業今ゞすく悪
とやこまり〜くだりひこく人ゞゞ めサア〜〜やく教〜ゆ〜
トこやー〜さあまこく八辛ゞ母の多よまゞる折こ天日宮こり
ちこと悪の一茶の陰火達〜〜さよ落まゞハこちまちよ烈〜と

しくもえたるさもおそしき火の車お渡よえ〜牛引る所の
衆ハおハ八字成うとく彼火の車〜載せんとすれば仇吉ハ部屋より
今まぐく車ふ和るまどさぶ女のやさしくも弱よ母子の
陰金ト眼〜成卍すまの縋うとうきカ立ら〜あし母ハ
おあ夢まりヨモ〜どうぞ母を憐ぬ〜くでさいます
イヤ〜みるぬを新たるせこまぐく泣くッさけ老女グ羅の地
獄へさう居〜途中も若痛の火の車ハ姫の色香よ〜ぶら
うさま〜牧子の人の絢の火のひとつよ〜りいひ〜と〜しふ

元婦の怨恨非を若尼ふ元〜しく若ら縛ハ二逢河の岸
まぐくゆ〜ぶ経元彼安の 僧ふ幸ふつの て元ま元〜しく自ら
う〜ふと元さ〜元ぶ元ぶる紙ハ在銭得く左り銭矢ふ勇
の分服和元異ふ人毒生ふの僧ふ羅ふ法くら〜く悪義を
ふ手ま服もふ元ム晴完道もまの法〜り逆きよむふ元 仇
吉もこまり元わ〜ふ元ハ母ふふ地獄の責情を
ふろうと突ま元ま月のもふ岩ろ〜さふのまごけま
と仇吉ぶ親ふ元りべ推ふま元〜仇 我病ふ元ふ元ふ手ま〜どうぞ

今度毎人をかんうんきろくできたりしてさしたるまさ
き或たりと云ふ火をんに燒まするばもアロト下妻さけび
こゑをあげその妻みいどろきこく見まそ帝の庶の上郎汗
多位者の勞き美とおのれど服部まさごゆるできた火の車
祝元多る堪火の火蟲をコヒダ或火揚せ一ゑ粗火やどりの一
こう出るが山日お八幡八切通し一多る部よ紀多ゑ和樂のつよく
樂しくちまちもむかくありけるがとまとり家周傷寒を始ひ
ぜ親元弟八ゆゑ沒不庶すがく仇敵が身のけ或すらんと

せーゆゑ八日祝師るきくふ世界きりくく藤ものこと法寺りくそ
この物語り八性らけまで作者初年頃ゆふ寿ゑ
号ありしとゆく動ゑ吾懸愛の一助ゆまべとゑゑ
ひまりめとふ多せり巻或初くくの児女童義他の
振ひくらどゑ公婆或正法多年とゆ一ゑ更ゆんと
ゑぞも元合ゑりくく

校暦
餘典 春色辰巳園巻の十終

江戸

狂訓亭主人著

第九條

同じ流れの川竹も北の郭の山谷堀舟宿多くその中ゆ名も高橋屋とかなづくる家の門前より女郎の客を招つゝ結ぶ信切者妹とあせ一延津賀の類ふよりて

てぐるま駕籠もうち揃ひ[illegible]ふ小舟ハ和奇所の河岸よりて仇者の家式ごとに病気とも[illegible]ば表の格

[illegible]ハイ　[illegible]ト　[illegible]さのまー　他[illegible]の[illegible]は此方
[illegible]トいへども　[illegible]　他者が　変[illegible]　弱る　大病の[illegible]く　過る
もあるべきと　[illegible]　[illegible]　お深ハ[illegible]不
[illegible]と思ひながらも　絵[illegible]く　陸[illegible]をあけく[illegible]
深　[illegible]あるとも　お[illegible]る[illegible]ト　[illegible]の方をこれ[illegible]
[illegible]女の[illegible]と　[illegible]ふ[illegible]　深　[illegible]
他[illegible]ハ[illegible]ト　[illegible]　他者が　[illegible]　他[illegible]
あげ　他　[illegible]

いひつく　お深が　[illegible]れぬ人　[illegible]　考[illegible]お
深　[illegible]と　[illegible]　深　[illegible]ト[illegible]く[illegible]と　[illegible]
[illegible]うが　[illegible]　[illegible]　[illegible]　他　[illegible]ヤト
すこー　[illegible]　深　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　他　[illegible]ハイ　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　他　[illegible]　[illegible]ト
[illegible]　[illegible]ハイ　[illegible]　[illegible]　深　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

はしら中おまへのる手紙差ふ又て伝ぞう書ふるゝ伝て振
子と又て書こいと言ていろが子まへでもひさしく書れ
ぎふ屋てゆうく帰ると毎日く月ざつひごの家用ごの
ゑびすの名ゑんごのトまゝも日間がるいゆへどうぞ私が他所ゆふ
あつこづねゆてくまるとといふゆへ今月いしゆの家天さまへお来
ヤるぞう来ちごをしてアヤ看病へ母れでもゆるるのゑ
トいとれて伝吉へ渡るぞうい母の引をしより親戚も病人
のゑゆゑ書ごん日ふ二三度近所隣家の者ぶまりく来の世
話するどしてくまるゆ喜れゑ不自由のゑ伝ゑしく
ちるゝければ家も不仕ゑ源と性しる
同ふいふ彼吉ゑ伝吉ゑ外出ぎゑ
伝助者るまどこれも今れ嫁入して生活の方へ母
ゆゑとゆふいうしゆへ人間るゆるりしとそゆく
人の身のう人ゆど来ゆゑ者ゆるしゆ手も出ゆ
ゆれが来ればれば来時ゆ老人とゆを見へ来ゆる
ふゆ下拵の時を見ゆべしいゆ業こいゆれ天地の間

あたりのゞ欲より人ふだなさまをまもく恨めて悔しさ
ちとせ一代のも情しさを身を守所と誠のごく

ふ市の人

○世は年の今日をかりことを同じけと
時月いるりの時日をあらまび

かゝて古濱を達りある女るまゞ他ちが不新合ある城蔵
て今るまるどゞ小老にそを人々山谷に帰りて他ちが親戚
の移りをたるけるを人久しぶり申て米八が延津かるの方へ

他ちの病の病気親濱の男の病気なりて明りしそまと婦人
川中に他ちが浜丹ふ浜まる国の親れ一人身ながら病ま
人呂伝事も人形と第元ま稼ぎ稼切らしく
所るの男ふ又と事ふ農業の暇くも答えもとかすり元
高ふある人まれるまゞ新入まく山谷れ京門の雑他道
まで書入とり一利丹の金借る者れまりて山他
ちと親濱申て寺濱強欲非道の曲者森羅殿橋の鬼
九郎今日も又舞と怪怪を義て高橋のいまくまり

とん
はなぢる 糸の例 鬼へ ぢうぢ 他さん 今日は 大分 顔色がいく
の 鬼へ ハイ ありがとうございます ぢうぢ いくらと 思ふと 御長さー也
うくぢうぢ もいけ あるヨ 鬼へ イヤ くそまでも 今はえんご 新しい
いいくそーてう 繁盛 しかたいつも 年寄 出るの 時より
えくくーん 赤ー 抱き人の その 病気は 抱き 男の 思ひ ぜ アア
さーむ ろく 他人 ようは 思ひ だろうでも 出ます 不出ます ぢう
ちぢぢといひるぢう 他ちの 名 ちく 鬼へ 抱きて きまいる
どうも 鬼へ ぢうぢ へらーうアれ ぜへ ぢうぢ ちく 他さん

ひるる中うくえやうりぢうぢ 抱きて とうてくんれく
そうちりやア是までの 借と 合も 遠すゆり及ぶ 毎日の 入用
も 不術 抱きて ぢうぢ 毒 病の 看病 あれが ちる ぜ。エ 他さん
エコウ ト ちつく 病ちと そろく とまつりあげ 抱ふろう式 他
ち 病ちと 抱つく 身と 編 他 アレサ 抱ーヨ おり めん 抱
ちのがちんるふ 久しく 抱つて 難が よぢまちつて きりく
抱が 身と 抱が あのその つきる 抱よ 稼ちく 居る あの 他お
まくも 安ーん 何ちる 男 ちく おくまでも 出よ あいその つちる

金とるうて
鬼九郎
伝吉伐
いどむ

様ごへる　鬼　イヤ〳〵　他人ハ　あつ〳〵ぢ　あいつハ　モウ〳〵　今ニ　ことを
きいやうとられてまやア　弘平ニ　電　あのそ　あいつさ　猫人ト　抱ちく〳〵を　押
退　他　アヤ　アヒト　美物の　家式　あつう合　他　マア　あやつよ
ちんるふ　様ちく　屋ちのとを　押ま人　かりハちふぐと　あるつく
あくまるつぐでも　あつけ　ど　様ぐ　ちんでも　かるハ　様　とハ
ちく　様ちる　乳ドやアハ　ハやぐ　鬼　ニ　ぐ〳〵して　押ま人を　殺して　いくあの
いくるちく　やてくまりやア　医者を　武人　うけても　物入ぐハ　いくく　か
ハくる　様ハ　様人　見物　金　様し　様　あやア　様猫人ハ　他　サ　ちよ

思ちく　あくまるふ　れふ　金　様よく　あつて　産ちる人　でも　出ちれる
ちで　ちまる　長ふ　この日　ある　猫　式　ちく　ちる　式　ちく　ちふ　せど　と　ちる　鬼九郎が
の中へ　入ちる式　押ち　ハ　ちる　を　押ち　式　ちく　ちふ　せど　と　ちる　鬼九郎が
鬼　捕を　ポッキリ　選ふ　あまぐ　鬼九郎ハ　他　アイタ〳〵　ヲ　いて　人
和ごハ　ちと　ちるぐ　コウ　他　ちん　いうげん　ふ　ちる　猫人　ちる　面白
くも　猫人　中　鬼式　ごちん　ちう　ふ　ちる　ちる　ぐ　ぐれ　井滴　ちん　ちる　よう
ちて　ちぐ　ぐマア　金　ちん　人　ちん　ぐ　ぐ　ちん　ちく　ちる　ちる　ちく　ちる　ちく
で　ちる　ちふ　ちん　て　ちる　人　ちる　ぐ　ちる　ちる　ちる　ぐ　出　ちふ

中ノ町ノ茶ヤ側ノ角ニ居ルヨリ外ニ
遊ビニクルヒトモアルマイガ
ラウガ外ニ出ルヒトガ
ヒトツアル　今ハ
ハ切ト　ヒトツクヒ　遊廓ニ
ヒトツヤ　ヒトツ　用ヲ金ノ目数ヲ
限ルヒ　限ガ　ヒトツヤ　通男ヤ
ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　人ハ　ヒトツ

ヒトツヤ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ
ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ
ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ
ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ
ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ
ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ
ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ
ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ　ヒトツ

機嫌よく抱きて寝てゐるぶりと云ふ事を投げ出さ
れぬるつけ。ドシく陸子隔紙の煙いやつに反吐やとまび
ふ行きたいのぞ持く行うと中高ちり紙和しふ
かりまべ抱きいくもの世間のもの弟子ーけまべ口持ち
らるる紙金を他ぞうぞ得れうう道具と変ことに変ちと
待てあくまる酒屋ぞうう鬼酒屋も嫌も動人ぶかまち
ふ持ぐあけまアは家ものそのもザいつまで持くかまる
ものうえぐ今日もやはるアトのはるんのの

鬼這起きり音俄若ゲ鬼内の猫ふりの死ぬぞ
ふ寝ん ーてせめく宮二三日続く動ふ生まるう
鬼ーて ーて前ト鬼ーて行紙中ーと門正れば鬼ーて
ーて和ーーーと今を過ちどちぞ他サア面白とのふいや
ぞへ面ぐ行紙いつまも私ら病気今義先生ーやア他人の
ふ鬼コウ ーード せり時ぞ中ノ生とも出ーー彩ものなれ
ーーーあーーーーあーぞ他人ーの中ーひ寄かーちぐ
ーーーー

人ハ似くもつゝ新人その力強紙をくゝて引毒る同ト力紙
を長くうけく引きうるりやア有るよりの紙の乗内寸法ハ弁分同寸
俳句ハ有るうの紙乗ハ有るのハ小ぶ〳〵也少〳〵色乳ハ出る
サア造似を毒掛ふう今紙つゝたうぞハ有るのぞト光すぞうる
仇吉と寄例しく毒のかゝ人隔紙かくて立いぞ海のうゝ
毒ひうり陽ふも明ぞ毒ふく〳〵その金ハ人〳〵今私ぞ造ヒョ〳〵ふ結と
いゝたれて毒ゝの兎ハ事ハのゝけ移ぶ仇吉ハ傳ふ移る計里ふう

第十條

時ハ陽ふ武幹ハ立て静ふ入年ふるその女ハ毒の敵と仇吉ぞ毒ハ城
ふ米ハふう敵ハも宮ハも立ふ毒ぞ上ハ毒ハ毒ふ用ふぬやうふ仕ふう結
ぞ毒ふ命仕ふ毒人ふうふ毒ハ酒ふ毒ハ毒ふ毒ふ毒ふ

いる　ゆと
今ま法でいろくもまんうえとあるあるるる鬼九年ヨ向ム米〈アイ
モシ　地手人が俗ものえふ備と今ハ何程ぞ人　泉〈地手人ハうう俗
ものぞんとハ色の者ハ俗で就図ものと呼ぶきんく形ハ色
もうえ初うと米ハさん米〈アイ人の呼ぶ七十五日ものもりハ色
も角ゆ今ぞ物ア実の見牙頃幕手形ものもハ形ものく
ものよ
ものて手今ハいうぞ米〈エ　ハイ何ぬ〜ぞ　ぞぜ人まも
たうと六七ぬト鼻でものもらのものきうハもを米ハ紙むもど
ものもん大金ゆ　ふ　ぬ　ものもりどと思ひてかくハきうと米ハも

懐年ようと金ま手り物〜紙ハ載ゆ新をあるぞく七ぬを
鬼九年人さ〜つけ米〈　懐文がものもう初ア　ぬ　懐ものを
をあくもトいもまく　ものうう　鬼九年　鬼〈エ　ものん　ものう
地年人ゲ五代て　ものの　大金紙　形人　米〈アイ　俗ものん　でも
形でも　ものう　多ハ　活業〜　ものかう　物体　ものの　懐金紙
米ものもものもものもものもの　ものサ　俗人で　ものもんでいぞ　ものもの
ものの人の　ものと　遠ハ　ものを　懐ものと　ものもて　ものく　お
久　ものの　俗〈イエ　ものもどハ　ものう　形の　ものが　海　ものう　米〈ア　サ

伝さんが何ごとも為でおくよりアとこへ打ホ牛うしくく
おくをといふのホト服をぬぎ米ハゴ心の座へ来ら
れども長伝ものこしも人今さうにきこさ事ども物語
と世をうて多よ伏況む鬼ハアイ　そんなうこと多ゴ純文サト
不義くホさ世すべ米ハも押ゑくきた米ハまちやア
ちゃうえんぶ三番どよ鬼ヲイ　ちゃ和ハ神よホおりくひやし
きくくう七あどハきゃ者お道ーナまんトいべ米ハ覚ホ
りくひ来へようヨ外うく居る伝さんとんどひさあれよおホ

ホあげるヨ　さくくよくおゆりと進ぜさまくく　鬼九郎
和と考くぎる　後家者かゑハね長の不貞尾まハ　きゑの
の金も名聴と彼七あゞ壊くいまて考くも重ゴる伝
ゑハ郎ホ来ハゴ伝さの側へ雪ゴ来へ伝さそ私ら
今の考うちを知ゑさ伝方とお思ひぶらゴ陽ゑくく
アアおやメヨそして。えとせゑ考あいうトきゑくと弁甲武
捨てへまりく漆くやせさ移へ。伝さハむのうち今日まハゴ
ひ所くまーその長ゑハ考ねどまさかまゑるよ陰の鬼

と申くらしーとふ　ぜかい抱いどうーーー

けんぢの
賢女あざ
俤と
恩ふて
ふくゆも

ゑ〻せる同ゞるまいさらう移〻ア丹さんハ親はさんゞ道中で大病
ごとしの〻ゑ〻せゞまきさのんごゝゝ縁ゑ藤ゑゝ変すゝく系
ゑ〻ゑ〻ゑ〻

私が生一寸ばかりの時分に子を抱いて乳母
らぢを遠くに捨て来る義兵衛さん
かり
を程なくこふじて坊さんと喧嘩あり
さてあまくよ良内もあれば私が無法者
ても勿体ない仏の御の草履
ぶ新しく足袋を来てあるくまのお
ムムくるくるとしてあるくとこ
俗者が源の雨ふりだらくと降り
めつ来へが来へ
うしくこ人合ばかりあるくヨ今義のおでさんが来
めてのらふうこ
湯てもよの法くトまく俗者が
あるる来へ俗さん
さぞ風ふくおめぐらうと
えどあつうこあまの小坐ひよ
あるヨ

久
ゆるとゝ赤退くゝゝ
とゝてもゝん
ゝの
ゝゝゝゝ
ゝゝゝ
ゝゝ
ゝゝ

あくまでもさんゆめ　来へ八ゑくトいひさうく　貞操婦女八賢誌
といふ絵入繍本をいでーこまぐ評判のいく新板でござい
ます　来へこれふうくさまぐ他ごくト　他者の名を　イヤく　私やアこの
程別事といふ他者へどうも　婦人ごとき　時
分うくこれるのれどもこれも面白いのハまくこれいのもの　来へイヤく
そまつこんるまこ子やまこ人の他さのく　甘と濃くへが　必分り
ちことのでこざいまもこの八賢誌とアハ　来へ公とまとか
来へ他さん後他とこれるのでくかとこれ濃でなくまるヨ　一緒の新板く

こまさん　吉善さんふ　時見の弱のことこくあくまヨ　来へハイく今日
も用がおるるのくぶそくあっこまんまート　いくぶ来ハ来ハ彩ずて
世事につのく八月のもの公
たちさんふいろけのく　来へハイく　これどやア　歩ると　行て　こまが　ちく
くと金をまこ　こまむ
まくこ　他程　来りまくト　多　あと　ちくまんて　ゆくあく　来へ他さん
ちくとあくんまト　いくぶ　他　こまく　極くまくれくこくと　他
ぬ　来へ他さんこんとこまくこまこ　他　イヤ　来へ　私が　行くこ
ぬ　ぶるこまこ　他　イヤ　来へ　他　イヤ
ぬるこまこ　他　イヤ　来へ　他　イヤ
くぶくくと　他　他　来へ　他　イヤ
こまさん　吉善さんふ　時見の弱のことこくあくまヨ　来へハイく今日
も用がおるるのくぶそくあっこまんまート　いくぶ来ハ来ハ彩ずて
世事につのく八月のもの公
たちさんふいろけのく　来へハイく　これどやア　歩ると　行て　こまが　ちく
くと金をまこ　こまむ
まくこ　他程　来りまくト　多　あと　ちくまんて　ゆくあく　来へ他さん
ちくとあくんまト　いくぶ　他　こまく　極くまくれくこくと　他
ぬ　来へ他さんこんとこまくこまこ　他　イヤ　来へ　私が　行くこ
ぬ　ぶるこまこ　他　イヤ　来へ　他　イヤ
くぶくくと　他　他　来へ　他　イヤ

猪で一旦丹さんと出会ひ別れて法のごけまで行の国果ら
うとすれば法くだらうくて居まどきて丹さんも居あらく
ぞ出こそそるのいが夫の法でかるとびくくきろ事でみるう
と同名屋の出きこのいのめの人さんの不明の気性ぞ安ぬ
きで縄ときくぶふ居このと男ひく居さけまどあきんの今
ム ごんきく
日の出信田出りてはるあど行ぶ羅宝塔ひ仏の屋敷和尚
さるでも紹さんでもゆくひと思ひめさあいあ宝人部ろい
世界とみるきまいはるくまいはるくきるを いきわくく丹さん

のちといろくさ義ろもえと出ようぐぞ来さん
そん出りく今きでのうの婚礼しくきかるりゆい
なのびるうき
はるるでどうで死ぬうその時い来猪る中うぐ縄絶
うん母きんと丹さんと一同よ来ていとる名きてあれか
さるぞり出ひきるとの人名の義の干るい中やうぞう
悪病る執心とお男ひぐらうぐよくくる預ひとお
りく丹さんかもぐのぐ来んで来てあくまるト飛
も湯ぞうり濱の濱あぐれの里の源義と気も実ふ

第十一條

江戸　狂訓亭主人著

やくそくせし来モウ〳〵手紙する嬉しいちと紙おもをあい抜きの人
のこゝろとあぐらをかうと思ひて来て渡てだらり居ちゃ
いけないいつまト鼻紙で濡紙ふき上田ふあ〳〵で土佐小の紙を出す殺
ふうて仇たぐるれっきり来サノヲ渡をおあ死ョいつて服のまるとりゲ
待くヨ　モウ　あ渡で　あい見ちゃ　こゝろを　ちく　二人で　ちもいまのうけたる

しでもあるよめ子仇名も完爾浮ったひ猪ーそうよ紅雪の
ぢんきち
多吉ぐ三射ーー商人よりいろくの拵成のち乗り酒者あも乗り
久藤の子ぐふ裏の内義を彩んで吸雪の仮ぐら久勝を元を
あてのーひ日ゆ三ければ泥そのの小実物不幾行ーとて元て後
内義ハ子メとなりいを義を告れば米八を小仁米を一ツ紙小紅猪つて
礼をうくかーー絡よハ赤さ向ひ米八ハ元えトニ味せんでも出そう
トやアあいう繕ぐハーーしのくうるうる移ハ九ナニよひョぐうぐ浮て
出ーてあんまるあうーー糸ぐぐよるそいうあるとあハョト麻成出るを

米八を押とぐ米八アサをふーてあ出ョ私ぐ出ろう仇殺よあろう
とそ人あうあるトを米八ヨヤ久ーーくあ出ーーであるまいのふ
よく皮ぐ口ろまあるく移ハト
近所で仇とう出やアあまひろ子病人の側で来て言ませんを
動くやハも移ハあんぞと九ナニ近所ぞても興妓の色ぞろう
出ろく居ときろく三味線のひくとろよのさ米八トろこーつけ
てあくのろ。アちよろとあ出ョけるる堀のお洋髪さん所であさん
と可遣さんとドこ一をあらくろ能楽成あろうーて居ちけ

げ子手中可達さんが初会ドニ一と浮さョ私やアモノあしくって
ござるんぢ仇ヨヤそようへさあく浮く変せる来へコウサアこう
ぎホいとしいのしやアあいが押しいろ〳〵ョ
二八ちやく
一町段ちやる身のたろあさつ〳〵さ○仇ヨヤ大屋さん出ろハ
△ろのいぢしやアねんちあんアあちんハどうするこ月こまっ
で居るぜ○へエイエるろく舞異ろハいってませんが縁よ
ふつぐ
ぢろハ不動合でござうまんどんを来月まで「ほそのなかの久松
めんる毛程いのてそんなそのよるいひろけ紙ト二ぢよ

してまちこ地主へいそれうう
仇
一ヂホ〳〵縁1皮関ろ頃ぢねく未へド二ハ子ろふ紙ろのぢの
しやア赤いト二味線紙ちろ不地元物をろけと胴線ぢやーん
ちる
稽ろいまと未ぢすとー春でおろ〳〵ろ目まんぢ合ろ一十二ろ者
さ及ぢおー春方ぢいとおまさけまとちろく春れへろっこぶ
えや今ろ疲ちを地主人のお蔭で大ちまろ不ふれ話ろよのろう天春でてんちひョ
未そまとしやア私ゆうまーい私へサアおまろうトほろを半り「へおろ異ちろ
いの所ぢろ人仇アノおあぢ池の八伝去挑さんとこの人おおーやさまちぢョ

米一斗ヤ〳〵これ〻やう丹さんのお御しるのゴヨトた
ぐひこまさこれその風情いくるる兼世の因縁ゆゑかく聽まゝしくうう
ーゆうんを五百人のをりえ小信われば四海へ不殘兄弟ありとまこと
不孝徳六子の出れ一史ゆ二河の流ゆ武ゆ一樹の蔭ゆ共むも
ゆゑ〳〵世たりの縁でゆく兼の世ゆの約束ぞときはめひー
る武男へ仮をあゝよ心安きく為し人も為に縁一の中ゆけりと
おりひゆくいさゆ腹ゆーこれゆ為ゆとそも為とゆ心を為めて
懸命ー一生和合すゆるこそ縁の人と愛らゆべーかゝて米八

仇吉へ渡ゆ兼ひゆ病とさゆふかゆう的甘ー見紙ゆ仇吉ゆ
嫁ーきへ行ふたとえん方もゆしーまゆうーて渡来八ゆ五月ゆ一
愛七月ふ一度同来ゆとその間後ゆくゆふ物ゆ病ゆ
ゆ仇吉ゆ看病ゆきゆゆ手ゆ大病ゆ病ふ快ゆ今ゆ髪ゆひ
湯ゆをいりをゆゆ〳〵ゆゆ〳〵ゆゆ久ゆく日の間ゆこゆゆしゆ為
ゆで文ゆゆ仇吉ゆ知すゆ病わゆとそゆゆゆくと
兩の柳の家ゆゆむゆゆゆゆ乳癌ゆゆゆ此ゆゆゆ丹ゆ兼
も為よりかゆて米八ゆ始後ゆのゆゆをゆふけ不後とゆゆど

兼好として仇右方へこそ葬んとこいひそまひびき侍よ打ちそ
おうんと呼ひ〻ぶ来へもてんきあくぜひく紛てもふぶうぶひふ打
解うてうひ〻て帰孫同弟とちうひる仇右ぶ打ちく和うけ見び
とまでのうい者もかくもぞうす多へどふあけとる見絵で中う
絵ばるく殺ようけ系仇右ぶ知報ものぶ〻てうれば教れゆくうん絵
らまびとと教こければ丹弟も仏の屋とも出ど始らふるみ見び者へ
とて家を出出事ぶりゆく仇右ぶ方へぶるて来りしぶ右者和
き人来へぶ打せくうとを一ぶを仇右ぶ者へいで一丹へ海よひき

あくあ絵人うちふ大紀を同よ来きのふそ見でもうくそんあふ
紀るやうふなうこのトいどものいふかりうる仇右ぶを風絵
者海ぶむ女の情仇へ生く物生人ふ者見中うとふ思いあんぶ
米八さんのあぶげで食紙へそうて見生一ふト膝へ海紙ちふく
丹へるぶで海のぶ物ぶ不海絵をく屋とあへ知ようる和米八ふ
うん絵見とこのう脇いうのそう者見びあれぶ間中米八ぶそう
くうよあ一と食こけいあれぶ門絵で知めふ中るうう知でまりらく
海のりで米八よ遊一絵人る知イエそりやア成程食へあでこ一

らくらく陰ゝゆる米八さんかくもるまで米八さんの昌八ゴすまこ
ゝゝ人おまつとも玉紙づゝしゞ出来ても米さんとい紙つるひで
仕切紙はくゝまこい丹ゝそのおでゝ落くくまりやアおれも是ゝゝ
ゝ陰ゝ居でゐくイヤとのゝ云寿のめをそらちく行列ゝこまで米
八ゞゐまこのこれのとゐめくよ嬉ゝゞゝ甘る洗のゝで撰ゝとけそゝい
ゝゐゞ仇ゝどゝすまこい米さんのゆゝよ乱ゞめまるゞらゝト泡
ゝ居るゐゝゝ米ゞけよ丹ゝ寿ゞ片見ゝと縁人拙ゝゝゝ瀬ゝ米
小蒲焼の易指書にゝゝこびゝまる仇ゝヨヤゝ大そゝふいろ

くと拝ゝるゝゝ丹ゝ寿ゝゐくゝ米ゝゝゐゝと寿でゐゝドゝ
絵ゝうそまこゐさゝでもゐるゝゝ垂ふ切ゝゝ仇ゝどゝそゝう
ゝてゐくれるトゝゝび丹ゝ寿ゝ米ゝゐゝ影ゝかゝゝ丹ゝドゝそゝゐゝ
達ゝ寿ゝ居るトゝ紙ゝゝ紙ゝゐ仇ゝアモン丹さんト縁まのそゝせ
かゝゝゐ瀬紙あゞゝそ仇ゝさゝとゝいゝくゝゐゝゐゝヨ義理の
柵結の縁で明ゝさゝ玉米八さんおまくゝおゝのゝちも
止めゝゝ海ゐ人結ゞく縁紙ゝゝびふ掛揺ゝく丹ゝ寿ゝされて
くまゝとゝいよのゝ仇ゝコレゞよゝくゝゝゝらゝのゝト寿ゝゝく泡

仏は「丹さん」戸下に居く私が公のくるしき成業にてあるまよ
コウ丹さんトいふ形義よ入梱の結ふたりくる義るでいたーう
陸のむまの重風よ乗れー極願の陸ふようーていう吉成
丹へニギ豆ウ降てきてそうぞ仏「エ。ド」ト言ヒと為。元ふアア
大そうふ降くまコヨ言いうアア物成あつくて二ツ事ぐう
ず一瀬紙ものである丹へ目形ちあ客ぐ事ーう面公そうアア
元れまで武ぼうくゆうせトいべ仏言ハ丹ふ事を自服つけ
仏「丹さん」私ぐあり紙つけるうう表の戸や二階成ようく言あく

ものを見ふ物の出入用も遠入用も面いうすぐふうに陸ものか
けく言ヒけくあつれる丹へ武ア「ひ私く青うう言あくまる
ものをーてあうア来よ物ーア仏「土」かくものく丹へ今よく
知ふと言ことやア面ん仏へそうハ言ふけれど日ハ入ふア
ぬ私ふ言ふ陸ーぐうーく陸ふるのうふひよりと金事
で怪ふでもーて出ふる事一米八さんへ私が土産ふいとい人
ぐうアする私も普ふ見ふあるうう丹へイりく陸ーくト
ひりるぐーう渡ふるの戸と言めう仏言ハりをつけて酒言ぐるう

麁。ホイ　今日ハ甲子ごろけ　大黒さまが性根まげるのを
ふせぐこと　大ばうちつける丹ハたきのえるぞと甲ふかまと
鄙ごろく　あるといのぜ　仇ハそんるゆ　ばうこたのこ
ごけまでにふかまるも　ばうしく　ものよりいの後ろ丹後ハ
ちゃと絶法くが　ハしゅうしょ　粉ひの男ひごハ子　丹ハそんまう
ものうう　酒ハぶごと　仇ハてもく　丁度物ぐ　出来ョー　見より
出ごとく　雷ごとわるく　丹後ハ雨戸をあけョハヨハハた
ものふ　法のりごぜよりやア　ものを　後ハ　ハ　ものやア　ものぐ

ものごと　一人一人ふ　ものと　ものこのけるいわく　丹ハナゼ　一回
ふ　ものハ　ものやう　仇ハ　ものやア　ものけごそう　ハごハ
もア　米ハ　ものハ　ものハ　丹ハいかげんふ　ものう　後ハ　ものとも
ものく　ものハ　ものうち　ものく　ものでも　ものこと　ものふ　不　ものハ
ものいく　仇ハ　ものもの　ものハ　ものハ　ものハ　丹ハ　ものう
ものハ　米ハ　ものく　ものハ　ものハ　ものハ　仇ハ　ものハ　ものう
ものの　丹ハ　ものく　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ
ものと　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ
ものの　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ　ものハ

うゝどよゝそもゆめゝまつゆへ仇へ後生まぎらゝ嬢ゝがうせびゝ不
思ひさゝゝそおゝまヨ。アレサ風式ひゝゝふゝうて寝式ゝ
いサア寝式ろゝくめげゝうゝト疫真と出て丹次郎を寝し
別よ家とさゝく仇吉へさゝれて寝る丹へコレサ仇吉気いゝ
げんようそゝん移へト無理よ部ゝく一ツ疫ゝ出むづり さゝん
ぎる苦悩のまぎ吉郎ゝぬ妻と同志ことゝりまゝも添くゝゝの
義理も言ゝ乳も吉りゐぎゝゝ思ひさゝゝれ仇吉の風情へ
く義和ゝそいまどもさゝゝ米八も移ゝむゝのめゝずゝゝく

時義ゝづみて仇吉と和合まゝゝふお嬢をも結ひつまゝ一夜二夜
三曲ゐどの連弾三姉妹ゝもいゝのごく常に移ゝひゐゝけるが
仇吉へ移ゐよ家ゝゝとつゝゐ丹次郎の住送ゆゝく行ゝ不吉
ゐくゝゝゝ中終よ丹次郎の移を出ぎゝ米八対ゝ面月
きゝや思ひゝん丹次郎へ一対の義式ゐり婦多川の家を
そのまゝふ移和郎ゝく風と言ゝ遠ゝく移分ゐれぞふゐりいれ
べ丹次郎へいよ及びぞ米八お嬢ゐへ実の姉妹の出と
ゐ母ゝ人。ようやさまゝくとも位切ゐる生徒の二人ゐまべ八方

小人紙出〜とまとそづるさせまつ加持祈禱と神仏に祈
念〜てさづ〜けれどもそよとの風の便をもなく澎湃月見式
母世〜えべ今いまの世に亡人とあるゆへあるに私ども彼
丹波殿へ送り〜参に懐胎と和〜身式張を振きと出
多分世と捨る文書多りける中へ家出〜るその日京命
日と定め追善回向をなりるく法会ごろに帰首
仏壇の行水〜けるべ他出中を亡命せ〜よあるざること
ゆるるるべ弟子に後とあるひとり

第十二條

後五百歳廣専流布の誓ひよりまの妙法の
場伊豆加美とや稱〜るれ寺（半紙）解集る十月中の二日
の夜より終夜金剛紙も切らべ数万の中に米八石積もるそ
信心ありけるべ今世の義式ぐひくさそひ合せ〜女連をかの
子をもに住ゆ梅のお宝 山のふる住居琴屋の代系 今の宝
内証と 如ぐかりいいぐ〜ありさそとそひ 安や家出式つまるもあるこ
やゆく樂をあ〜ぐと後生ゆ行〜ろ保安の初年紙ゆく義之八

このさいごまうふの形まれて世の世話とるるがあ嬉ふ獲ふ世
ー八十八とりの男の子今年三才ふ乳母ふ抱き世仕ふ
こと米八ぞ仕事中て家業六年もまうぎれば分るものこいぐ色
米八も子ハおぐ世でこ子ん悩中てまうる世八十八と秘義ふまること
ひそんこ言く元来愛嬌ある者ぞ知ひて米とこの小字成名よ対
んと丹波邦とおっしゃく八十八とこ言ーまり八十八のなまと二つよりせれ
ハ米というこまいよまてとおひ対する名ありうるかのちとふ嫁
ぐすまべまこと米八も通にかくく八十八といとこーせとこうく今日

も三年ぞ連ぐ言ふまうさまべあ嫁と米八ちいとおもきくのの
猫を赤ハく形ふも三年成ふ人成ふひ出て米吉人が
嫁さん形ーて大勢であるく中も仇吉さんの多成ふと嫁ふ
ハひまうでもあるいョ 子人ひうち人仇吉さんも一体ふ来ぐう
さぞ嫁ーがるぐらうにふもかうひまうぞ抜ト言ーまうまるく
道中たぐ文物ふきふの見ちゃ生業人まりーーこうハ芸人愛ふぞまり
中るー 中代赤岩文中も家ふ 三年まぐーまうとまうべーー
薄中の辯式ふ仕こと歳千万いとさハがーー紀元の中にまうくこ世ー

古石場
一泉
いち
さかみや

染之助

えりん　ちゆう
山門の手孚の横紙ちろふちゝて夕日小照紙そえ
ふりそう義経
湯へまゐり体見すべ紙義経ちゃん
さてなあらふわゝ山門様よ物
さいがゝく嵯峨さてる人あゞ東西南北いり乳れて女子どもの
泣叫ぶ夢のあれりよ笑ゝが彼八十八ばいごてゝ乳母い田舎のの
中をありる中人妻まゝもるく迎ひして義経あれたゞ見ようそも
ひさこゞ物ゝるゞとちふふをゝめい縛中の仲間嵯峨ゞ枝のさ
さく大嵯峨とゝありゝとぞその紛ゝよ嵯峨るどの訴えにある
らん双物紙ふりく男女とおどせゞ酒紙せゝ癖人の乳をあるきを

ちんさろゝ抱くゞまとゝありゝふりゝまゞ乳母を迎へく
人小実信さを終よ八十八をゝ見ひそうどうに祝ふく家まり
けれどもおさるりるゝ乳母の終まを嵯峨米八そのあの中を見ねと
いのその海ねゝとりふゝ事作あ歌き米八を弥さふ祝ふ
のゞとくゞまゞて山門ふりゝ及ゞゞ重門の外表ふの細ゝを
さゞせどもをゝとゝふゝ物ふ乳母ゝ米八嵯峨ゝあゝ同じく
湯くなゞるあるくのを達るふゝまて絵方るく今ゝるく家中
中ゝ知をまゞゝとゝ新よりて湯ふゞるゝ和泉の村ゝ中維盛ゝ義経

小迷子〳〵トいの様やうより外出に来八迷子といふと云ふ
と云ふものは是非紛れもわるね八十八歳とび抱て居る人ふむひ
身〳〵とは云ふ事ぞんじまして先刻のさうぢでそんぢまして
縁よりぢかもあぢをまつさう母〳〵あるぞ
母〳〵のことを八十八ぶんあるとこをを来人のことと母ことをあること 迷子の世話せ一人々も多ぐさ多ぐ
やく多勢と乳母も身をひくまぢ安堵ぞとやふうちふ思ふ系も
法ぢぢ乳を抱る来八十八をふてふぢそうふあるうときてろく
貴〳〵母人さん〳〵行ョウあるうさん〳〵ト云さうふふけば

乳とうり薬ふとやうくあるくさんとどあるく法ひ乳ーた
あけまぢ乳でも知てあるうりと義三郎ぐさーづふ門前ある
義三郎と乳母うり主家あどうのーあるふとのふ児
八十八の身よりたぢふるども乳ふ八十八の衣新ふあるぢさまども
以家の主人の宝物特種ふ射うるふふぢといふものまりあり
乳母ハ小用ふ出ふりてのち義三郎前ふ連ーあるぢ〳〵ヨやく〳〵ま
ヨやう多勢さんでハどぢいませんそうぢ来〳〵行〳〵ことを出発せ
女のあるまでどぢいます〳〵 女の子ぢと云ふ事ハ子ト孫あまれ

て白髪あり世間見聞せしぞうりうりゝ中あり〳〵義を
義〳〵ゝ今年八十さんざと見れども衰弱はなはだしく
わけてこゝば絵画もわらう場と私が胸ふ少し老人者と
うゝと年寄ふ古ふ物ゝ堅者者堂人系結をふ物の小児
いろゝゝ者ゝて米八のゝ絵をゝ見ふ身て四八ゝ四書ゝられ
て為ゝ絵を書ゝてゝよくゝゝれの妻ゝゝ為ゝ来八を書ゝ
さあゝゝゝ小四ゝ知ゝ場の名人ゝゝとゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝあたゝゝゝゝゝ小ゝ為ゝゝゝゝゝゝゝゝ

名人小ゝ人ゝ来ゝ小ゝ婦さんあの子人ゝ者ゝ為ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ちゝ夫婦のゝ人の方ゝゝ米八の抱きゝゝ子
を抱ゝゝ老人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
方さゝゝ存ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ遠ゝゝゝ抱ゝゝゝゝゝゝゝゝ抱ゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

と老人ハそうるせぇが老又ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆきもふつゝぎゆくたどる所〳〵八十八を脊中にあり一人の女婦
負まるゝ仇吉ゐる米八おゐ婦人まるゝとだゝり火ゝしゝく右
たりより出づるつゝ米〳〵仇吉さえうく〳〵八十ぢうく仇〳〵王米
さえかお婦さえんお米ぢうも一体よりくとゝかお吉合八九人出べ
らくわきまゝく居ゝうゝるゝまけて仇吉米八婦のこ人い違
中といふさくゝすまゝくゝもふ紙ゝうく浦ゝうゝこけまべ
義三郎と仇吉の伯父をいろくゝよゝ吉ゝあゝまづ五六
てゝうの賀ゝ紙中ゝひて女連紙下義吉まべ仇ゝとあく

仇吉ゝ宅〳〵ゝとゝりけるゝゝそも婦人川紙ゝ遠く伯父夫婦
の世話ゝとゝり伯父も誓ゝ義の地紙ゝゝまて田名川の
大町ゝかくゝすゝ女の子どりふこ三味線紙指南て浦吉と
ゝ丹氏弟の稽紙出産〳〵その名ゝ米ゝゝゝゝ
米八ゝ実ゝ吉ゝ日ゝすゝ義ふ吉ゝ〳〵ゝゝ出ゝゝゝ
ふつけこ身ゝ吉ゝの出ゝゝ推ゝゝゝ仇吉ゝ米八
お婦の仕切遠義興ゝゝゝゝゝゝゝゝ
出ゝ紙ゝゝゝかくて義三郎ゝ仇吉のこ紙

改めて新しく仕立てさせ後に江戸名川の富人仇吉をも使ひて
新しく流行せしめ及びさるめ紙ぶそのほかも第八
の段の世界のぞこの浅草古町もちろん様々なる
ものみしさて時の人仇吉を大町へ送りいづまも定て敬
アーが義を深く仇吉のめづらしく貴き八十八の第と二
人の真の仇ぶりを丹次郎の特ふ知遇ふ〻感
かうまでも丹次郎の真を仇ぶるを子どもまでふしぎの用舎
も出来うとく終に丹次郎をすすめく迎き取仇吉

親子仇吉夫婦とも引うつ世界八お様を新名ふ往
来しく楽しさ知へけるとぞ

まの一回ハ梅暦辰巳の園お編二十四巻国の大づめ
あるべ式ハ冊ゆもるべきを駆元ハ看官の長
幕ま燒のまんを紙抜そを巳非を編出結ふよ
このあふ意ぶ略しく第止めるべくふ
満尾せうこを巳を第て女児童幼の恵祝を願ふのこ
う

梅暦
餘與

春色辰巳の園巻之十二

戯作者　狂訓亭主人

繪師　柳烟亭國直

辰巳拾遺　榮代談語　同作　同画　全六冊　近日出版

ちゃん義平の物がたり　狂訓亭主人著

花埜名所　懐中暦　為永十寄之　全六冊　第一書